

平成 30 年 4 月実施—議会報告会・意見交換会まとめ

場 所： 共 和 地 区 （平成 30 年 4 月 16 日）

総務環境常任委員会関係	参加者意見	当日の答弁	調査結果
<p>秦野峠林道</p> <p>公共交通</p> <p>ICカード導入</p> <p>玄倉地区駐車場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の迂回路として利用する方法が良い。 ・不法投棄、暴走族等で地元の反対があった。 ・共和の福祉バスは使い勝手が良い。 ・町のバスの一元化を議論すべき。 ・タクシー券などもあり、地域性を重要視した方が利用価値がある。 ・福祉バスは利用者も増え、便利に活用しているが、土日や緊急の対応が課題である。 ・IC カード導入も必要だが、山北町の特徴(ローカル色)を打ち出した観光、共生政策を検討すべきと思う。 ・森林館、薬草園などを活用し、地域にお金が落ちる仕組みを作ったらどうか。 ・人家の入り口に車を止めるなど、観光客のマナーが問題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御殿場線の IC 化は山北町へ移住したいと思う人にとって最低のステップと考え取り組んでいる。交通の利便性向上を図った上で次の取り組みを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野峠林道は、松田町と議員連盟を立ち上げ、連携を取っている。今後、観光・災害時の迂回路として対応できるよう、地域の声を大事にして取り組んでいく。 ・交通体系の一元化は所管で研究している。 ・町は案内人を配置した。

鳥獣被害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県施設前を駐車スペースにすることは、県との関係で問題がある。 ・ 農地放任園対策とは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山と畑の間に緩衝帯を設けるなどの対策を考えている。 <p>鳥獣被害があると耕作意欲が削がれ、農地放任園が増える。そうした悪循環を解消するため、草刈りや緩衝帯が必要ではないかと考え、調査研究している。</p>	
ジビエ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理できる頭数等の時間を考えたら、費用のかかるジビエカーは必要ない。 ・ 処理場の建設が厳しくてもソフトの充実（皮を裂ける人数を増やす等）で少しずつ前に進めていかないと厳しい。 ・ 狩猟で得た肉をお金に換える仕組みづくりが必要。熱海市では主婦が行っている。皮等は一般ゴミで廃棄出来るよう行政も協力している。 ・ ジビエの今後の見通しは。 ・ 県外視察先では、なぜジビエが進められるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年部、議長、委員長、県とヒヤリングをするようなので、その時、更に議論を重ねるようお願いする。 ・ 県保健所が他県に比べ、規制が厳しい。伊勢原市で先進的に取り組んでいる事例もあるが、年々規制が厳しくなっている。ジビエカーの導入もなくなった。今後は県外事例等と比較し、二次加工所の設置を軸に研究していく。 	
防 災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工林を広葉樹やクヌキなどに変えて災害に強い山に変えていくべきでは。 ・ 植生の現状を森林組合が調査し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういうシステムを積み上げないと森林災害は守れない。非常に切実であり、大切なご意見である。 ・ 財源に問題はあるが、林道、作業道の 	

<p>土地利用・施設活用</p>	<p>町と共有する。町は、一人も犠牲者を出さないために、そのデータを避難勧告や防災に役立ててはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究している林業振興について、現在までの取り組み状況を伺いたい。 ・ 山北の傾斜地等に崩落防止の樹木の植林を議員で体験したらどうか。 <p>・ 玄倉地区の公共施設の活用研究とは。</p>	<p>整備も必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば川崎等の消費地での山北材の使用促進をセールスする。 ・ 公衆トイレ等公共施設の木質化。 ・ 町の集成材産業を育成するには、先進事例等を調査し、山に入って活用できるスペースを作る事が重要と考える。 	
<p>地域づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の不便や就職先が無いことで、地域の若者が町外に出て行ってしまう。 ・ 山北を嫌いになったわけではなく、生活環境を整えば戻ってくるはず。 ・ 16年前に「過疎対策専門部会」を立ち上げ、将来の共和のあり方を議論してきた。 ・ 地域が組織を立ち上げるのであれば、継続が大事。最低10年位はその役割に就き、真剣に地域づくりを進めることが必要。 ・ 共和はまとまっていると言われる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町に移管されたビジターセンターや森林館、薬草園、テニスコートは閉館状態である。これらの活用やヤマビル対策等の課題解決に向け、町は、対策を進めている。 	

	<p>が、実態は必ずしもそうではない。</p> <ul style="list-style-type: none">・長老支配からの転換が地域改革の 一歩と思う。若者の意見も取り入れて いかないと地域改革は進まない。		
--	--	--	--

福祉教育常任委員会関係	参加者意見	当日の答弁	調査結果
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・森のようちえん、おひまさが共和のグラウンドを月 2～3 回使用している。 ・山に行ったり、川に行ったり拠点などなくても活動できる。子どもがたくましくなる。 ・小学生のボランティア体験は非常に良いことだが、お仕着せではなく、こども目線でのボランティア活動を検討してほしい。 ・親子同伴は親にとって参加しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の芽を育てる観点からも、重要な取り組みであり、活動内容、参加の仕方等改善策の検討を町に伝える。 	

<p>定住対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が移住し共和の事業に参画しようとしている。財産区と集落で話し合い、個人に山を貸し出そうと考えている。例えばシイタケの原木を植林し、収益が上がった時に地代をもらう形での契約を考えている。この事業は実施できれば定住に繋がる。 ・農地も同じように貸し出しできれば定住につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっともなご提案として、参考にお聞きさせていただく。 	
<p>在宅医療</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅での看取りは家族にとって厳しい問題だ。医師との連携や心構え等ソフト面での啓発と周知が大事ではないか。 ・参加者への聞き取り調査をすべきと思う。 ・町内の訪問診療の状況は。 ・高齢者が病気になれば、かかりつけ医を見つけることやリビングウィルも重要だが、同時にシステム構築も進めるべき。 ・システムもいいが、それを管理する人が大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りの問題は地域包括の最重要課題であり、町が行っている健康塾や今後の啓発事業が行われる中で参加してもらいたい。 ・ボランティア活動の芽を育てる観点からも重要な取り組みであり、活動内容、参加の仕方等改善策の検討を町に伝える。 ・町内4つの病院は訪問診療を実施している。今後は上郡で連携し有事の際に対応できる環境整備が重要と考える。 ・先進地では在宅医療、介護連携システムの環境整備が整い、高齢者やかかりつけ医などが、ネットワークで、情報共有を図っている。このような先進事例を参考に、調査研究を進めていく。 	

地域医療	・急病時に対応できる医療機関が少ない。	・県西地域では、上病院を含めた受け入れ可能な病院10数か所が輪番制で夜間救急体制に備え対応している。	
------	---------------------	--	--

あり方検討委員会関係	参加者意見	当日の答弁	調査結果
議員定数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員はどんな議論をしているのか ・ 無投票は良くない。 ・ 定数は最終的にだれが決めるのか。 ・ 14人でも良いが、12人しか出なかったら格好がつかない。 ・ 14人がしっかりカラーを出して、地域のために活動してほしい。 ・ 地域性があるので小さい地域なりの考えや意見がある。県や町へ行くには議員が必要。 ・ 地域の代弁者だと思う。 ・ 議員は地域の悩みや問題は直に分かっていると思う。 ・ 現在の議員定数は何人か。根拠は何か。 ・ 議員の仕事で1番重要な事は何か。議員個人から意見を聞きたい。 ・ 人口から考えると削減も否めないが、減らしたことで地域の声が届かなくなることが心配だ。 ・ 山北の問題、課題、将来性を議論して議員定数を設定するべき。 ・ 地域代表ではなく、議員が町内全体を見ることができれば地域から出す必要はない。 ・ 議員は関心が無いといけない。提案した案件の内容がキャッチボー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前の自治法は、大枠の人数を示しており、過去には26人の時代もあったが、議論と手続きを経て、定数減により現在は14人となった。 ・ 議員定数は、明確な根拠がなく、人口比率が言われることがある。 ・ 議員報酬は合理的な基準はない。 ・ 一個人だけでなく山間地域などの共通の課題を持った議員同士の連携や委員会等で組織し、議会を通じて行政に政策提案することが一番重要。 ・ 町民の声を聴き、行政に繋げることが重要。 ・ 行政の監視、予算状況、事業進捗等をしっかり監視し、民意の吸収、議会内検討を町に政策提案することが重要な役割である。 ・ 議員の仕事は民意の吸収、行政の監視機能であることを認識し、活動することが重要。 ・ 地域から議員が選出されないと地域の思いは伝わらない。 ・ 議会をオープンにし、積極的に情報発信することで、町民の関心は高まる。そこで、議員と町民とでキャッチボール出来る必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あり方検討委員会で検討中である。

	<p>ル等で直に伝わってこないに興味 がわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で議員が出ていないと難しい と思う。 ・議会の見える化とあるが、見える 化が問題ではなく、町民が議会を 見ていないことが一番の問題だと 思う。 ・議会がどういった方法で情報発信 すれば住民に伝わりやすいかは分 からない。 		
その他	参加者意見	当日の答弁	調査結果
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・町に色々なアピールをすることで、 川崎市との上下間交流、木材フォー ラム、三保、清水、共和での自 治会主催の水源交流、大学交流、 出前講座などの活動を行い各地域 との人的交流ができた。 ・専従の支援や予算づくりなど町の 後押しがあった。 ・こちらから仕掛けないといけない。 ・官で動くより、民間で動いた方が 判断も情報も早い。 		
車座集会	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが意見を言えて良い。 ・この席は良かったが、テーマが多 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの声を聴くことが重要と考え、テ ーマを絞らなかった。貴重な意見とし 	

すぎる。少しテーマを絞り議論を
深めては。

て今後の参考にする。